



策定したサステナビリティ経営方針について
語る本間支店長（左）と宮田社長

サンエス 経営方針策定 「サステナビリティ」 北洋銀行が支援

北洋銀行（津山博恒頭）DGs（持続可能な開発取）と子会社の北海道共創パートナーズ（岩崎俊一郎社長）は、顧客のSDGsコンサルティング

を提供している。今回、電気工事や通信工事、情報通信などを行うサンエス電気通信（釧路市星が浦大通1、宮田昌利社長）が同サポートを利用し「サステナビリティ経営方針」を策定した。同行執行役員で釧路地区を統括する釧路中央支店の本間剛支店長は「当行は北洋銀行サステナビリティを掲げていて、その中で地域のお客さまと価値を共有していく取り組みをしている。SDGsの取り組みは事業活動の中において、企業イメージや新たな事業機会の創出につながり、営業活動、事業活動の中においてはサステナビリティ経営をしているかどうかで社会に選ばれることから、道内の事業者に広く

案内していると述べた。その中で「今回サンエス電気グループと一緒に取り組めたのは極めて光栄と思っている。宮田社長は会社はすでにサステナビリティを実行しているが、今回もう少し具体的な形にした」と語った。策定した同社のサステナビリティ経営方針は「私たちは、環境に配慮した活動を推進し、安心してやりがいのある職場環境の整備を同時に進め、企業の新たな価値創造と持続可能な社会づくりに力を尽くします」と、昨年6月から作成に取り組み、今年10月に完成。取り組み内容として重要課題は五つあり、宮田社長は「その中でも今一番

大事というのが、人的資本経営の実践で技術と社員満足をつなぐ。」と説明。働いている人たちが健康で働きやすい、キャリアアップも社内でき、女性活躍のさらなる推進をするもので「まさに、SDGsの重要なポイントだと思っている」と述べた。

宮田社長は「これまで経営方針の下、取り組みを行ってきたが自分よりのところがあった。全国レベルの標準にするために指導してもらい、レベルを上げた方向感のあるサステナビリティの企業目標を掲げることができ、とてもありがたかった」と話していた。（小西靖）